



ボランティア活動について話し合われたパネルディスカッション



小向井一成さんが県北部豪雨災害時のボランティア活動の様子を描いたはがき絵を見る参加者

第2回さつま町女性大会

1月28日、第2回さつま町女性大会が『安心して住めるまちづくり～私たちができるボランティアのかたち～』を大会テーマに鶴田中央公民館で開催されました。

この大会は、女性自らが主役となり、まちづくりのための実践活動を積極的に展開し、女性の社会参加の促進を図り、男女共同参画社会の実現と地域社会の発展に寄与することを目的とするもので、町内の女性団体などから約260人が参加しました。

小原裕貴さんのピアノ演奏をオープニングに、町女性団体連絡協議会の上別府ユキ会長が「災害を目の当たりにした私たち町民だからこそ、このふるさと‘さつま’に対して、私たち一人ひとりができることは何かということを深く考え、そして行動を起こすべき時がきている」とあいさつし、南日本新聞社さつま支局長の新納剛史氏をコーディネーターに迎え、7月の県北部豪雨災害の被災者やボランティア体験者など5人によるパネルディスカッションが行われました。

今回の災害を通じて得られた共通の課題やボランティア活動について、地域コミュニティーの大切さなど、様々な立場から活発な意見交換がなされました。

Jリーグキャンプ

今年、I.G.R京セラで京都サンガFC、かぐや姫グラウンドで愛媛FCが春季キャンプを行いました。
 歓迎式では、今年の活躍を期待し、県が黒豚、町が黒牛や梅などを贈呈しました。



愛媛FC歓迎式の様子



京都サンガFC歓迎式の様子

観光まごころ県民運動表彰

2月5日、上埜富雄さん（鶴田）が「平成18年度観光まごころ県民運動会長表彰（花いっぱい部門）」を受賞されました。

これは、県下全域における県民総ぐるみの運動として幅広く展開するために行われているもので、今年度は上埜さんと他2団体が表彰されました。
 今回の受賞は、イワツツジの手入れのほか、観賞者のために、無料臨時駐車場や休憩所、トイレを整備したことや、観音滝公園に苗木を寄付したことなど、きれいな観光地づくりの取り組みが評価されたものです。

上埜さんは、30年位前から自己所有の山（約1万㎡）にイワツツジを種から育て、現在では約5千本ほどになっています。花のシーズンである3月から4月にかけて辺り一面は薄紫色に染まり、その美しさを見るために、県内外から多くの観賞者が訪れています。



伊藤祐一郎鹿児島県知事から表彰を受ける上埜富雄さん